

科目名	倫理学	担当教員	宇都宮輝夫 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-----	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義

科目概要	<p>いかなる職業も当然倫理に裏打ちされていなければならないが、とりわけ医療職には強い倫理観と使命感が要求される。この講義はその目的にかなうよう、人間の倫理性に関する実証的研究に焦点を当て、本来は利己的な人間がどうして倫理的であり得るのか、どの程度じっさいに倫理的であり得るのか、またなにゆえに人間は倫理的であらねばならないのか、といった諸問題を考える。</p> <p>人間は対人関係の中で、あるいは社会に対して、いかに振る舞うべきか。これを主眼的に論じるのが倫理学である。これは生きることの意味と価値をも問うことになる。その意味では、人間に関わる問いの中でもっとも根源的な問題を扱う。医療現場で倫理的諸問題を考える際の強固な基礎を築く。</p>
学習目標	倫理の生物学的基礎および社会学的基礎について考える。倫理がどのような基礎から、どのような機能を果たすために生じてきたのかを理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	イントロダクション	なぜ倫理学を学ぶのか。その必要性を考える。	医療現場で具体的な倫理的ジレンマに遭遇し判断しなければならない時、倫理の本質・機能・存在理由などを大学で考えたことがあるのとないのでは対処の仕方が大きく違ってくる。そうしたことを考えた経験があると、短絡的結論に陥ることがない。そのようになることが最終目標である。	
2	進化論から見た倫理	生物は、長い年月の間に進化を重ねて現在にいたっている。進化は、体の形質だけではなく、行動特性にも及んでいる。人間の行動には、進化論的な根拠があるのだ。そこから、倫理には進化論的な根拠があると言ってもよい。いくつかの学説からそれを学ぶ。	進化論の基本的知識が身につく。進化論から見た一定の人間行動の必然性が理解できる。	
3	行動生態学・動物行動学が明らかにした人間の倫理性	行動生態学・動物行動学は、動物の行動、特に霊長類の行動からその延長線上に人間の道徳を見て、その起源と性質を明らかにしようとする。現段階の基本的成果を見てみたい。	人間の固有な特性と思われていたものも、その源をたどれば動物との共通の根にたどり着く。それを理解する。社会性生物としての人間に遺伝的に埋め込まれた行動特性を学ぶ。	
4	〃	〃	〃	
5	脳神経科学からの倫理	脳神経科学が光を当てた倫理の本質を学ぶ。倫理的逸脱がなぜ発生するかというメカニズムも取り上げる。	いまだ発展途上の学問領域であるが、脳神経倫理学の試みを理解する。	
6	行動科学から見た倫理	人間は一定の状況のなかでどのように振る舞うのか。論理的哲学的に考えるのは一つの戦略ではあるが、人間の行動を実験で検証することもできる。そうすると、思いもよらなかった人間行動の不可思議さに驚かされる。実験の数々を紹介する。行動科学から見た倫理を取り上げ、さらに、行動経済学が明らかにした人間行動の特性も論じる。	実験結果から人間の倫理性を読み取れるようになる。	
7	行動科学から見た倫理	人間は一定の状況のなかでどのように振る舞うのか。論理的哲学的に考えるのは一つの戦略ではあるが、人間の行動を実験で検証することもできる。そうすると、思いもよらなかった人間行動の不可思議さに驚かされる。実験の数々を紹介する。行動科学から見た倫理を取り上げ、さらに、行動経済学が明らかにした人間行動の特性も論じる。	実験結果から人間の倫理性を読み取れるようになる。	
8	人間の社会化	人間が社会の一員になる過程の柱は、社会で共	人間の社会化過程が理解できるようになる。そ	

	有されている倫理を習得する過程である。なぜ社会は社会的に共有された一定の行動規則を子どもたちにたたき込むのだろうか。ここから道徳の本質が見えてくる。	れがわかると、社会とは何か、その中で生きる人間とは何かも見えてくる。	
評価方法	数回の小試験、期末試験、授業への積極的参加度で評価する。		
教科図書	教員作成教材		
参考図書	各回の授業時に指示する。		
学習の準備	配付した資料をあらかじめ読んでおくこと。		
オフィスアワー	在室時はいつでも可		
担当教員欄に※印を附した教員の 実務経験			